第４９回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日　時：令和６年１２月１８日（水）　１３：１０～１５：００
場　所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

１．東電エンジニアリング状況について
東京電力から、2 号機 PCV 内部調査・試験的取り出しの準備状況について説明した。
専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○　作業員が不具合の発生により過度な被ばくを受けることのないよう、注意して今後の作業を実施することが重要である。
○　廃炉作業は長期的な作業を継続して実施しなければならないところ、耐放射線性カメラ等の高価な機器が故障した場合については、修繕をして使用を続けると言った考え方もある。また、機器の交換については、過度の作業員被ばくを避ける観点から、できるだけ遠隔で作業を進めることをできるように計画することが肝要である。
○　故障したカメラについては、原因を究明することが今後の廃炉作業にとって有用である。
○　今回のテレスコピック式試験的取り出し装置（以下、テレスコ式装置）での経験を今後の計画へ反映させることが肝要である。また、今回、現場作業で手戻りが発生した背景には、高線量による作業時間制限、汚染防止のための多重の防護装備着用という作業環境による要因があると思われるので、今後の廃炉作業を円滑に進める上でも環境改善（線量低減、汚染低減）を実施することが重要である。
○　テレスコ式装置での 2 回目、3 回目のサンプル採取をぜひ検討頂きたい。

２．次期研究開発計画について
機構から、次年度廃炉研究開発計画、研究開発中長期計画、技術課題のまとめについて説明した。
専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○　今後、廃炉作業を進めていく上では、燃料デブリ取り出しに関わる事項と廃棄物に関わる事項の連携は必須であり、双方のかかわりをより深めることが肝要である。
○　燃料デブリの大規模取り出しの基本設計の着手にあたっては、要求仕様を定めることが必要であり、そのためにも安全基準等を予め明確にすることが重要である。また、本委員会と、燃料デブリ取り出し工法評価小委員会との連携を深めていくことが重要である。

３．次年度一件一葉の骨子について
機構から、次年度廃炉研究開発の一件一葉の骨子について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○　燃料デブリの分析技術については、さまざまな開発項目の全体を把握して管理しつつ、優先順位を付けて準備を進めることが肝要である。

以上